

昭和五十五年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議錄

館山市議會







# 目次

## ○第一号 (三月七日)

開 会	七
議長の報告	七
議案の配付	七
会議録署名議員の指名	七
会期の決定	七
会議日程の決定	七
議案第七号 (議案第三十五号)	八
(施政方針並びに提案理由の説明)	八
議案第一号	一九
総務委員会委員長報告	一九
同報告に対する神田守隆君の質疑	二二
神田 守隆君の討論	二二
採決	二四
議案第四号	二四
請願書の訂正	二四
建設経済委員会委員長報告	二四
採決	二五
延 会	二五
○第二号 (三月十二日)	
開 会	二九
行政一般通告質問	二九
安西 益男君の質問、当局の応答	二九

石井 武敏君の質問、当局の応答	三九
近藤 好雄君の質問、当局の応答	四八
神田 守隆君の質問、当局の応答	五二
流山源次郎君の質問、当局の応答	六五
石井 輝久君の質問、当局の応答	七〇
古賀礼四郎君の質問、当局の応答	八二
会議日程の変更	九二
散 会	九二

## ○第三号 (三月十四日)

開 会	九六
議案第十四号 (議案第三十三号)	九六
石井 武敏君の質問、当局の応答	九六
横溝 功君の質問、当局の応答	一〇三
神田 守隆君の質問、当局の応答	一〇六
石井 輝久君の質問、当局の応答	一一五
菊井 敏博君の質問、当局の応答	一二一
委員会付託	一二二
議案第三十四号、議案第三十五号	一二二
石井 武敏君の質問、当局の応答	一二三
神田 守隆君の質問、当局の応答	一二九
石井 輝久君の質問、当局の応答	一三一
委員会付託	一三五
延 会	一三五
○第四号 (三月十七日)	
開 会	一三九



議案第七号、議案第十三号

石井 武敏君の質疑、当局の応答

一四〇

矢野 寿夫君の質疑、当局の応答

一四九

安西 益男君の質疑、当局の応答

一五五

神田 守隆君の質疑、当局の応答

一六三

林 豊君の質疑、当局の応答

一七六

石井 輝久君の質疑、当局の応答

一八二

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

一九一

請願第一号、請願第二号

一九二

説明

一九二

委員会付託

一九三

会議日程の変更

一九三

延 会

一九三

開 議

一九八

議案の配付

一九八

議案第十四号、議案第二十二号、議案第三十四号

一九九

総務委員会委員長報告

一九九

神田 守隆君の討論

二〇一

採決

二〇二

議案第二十三号、議案第二十八号、議案第三十五号

二〇二

文教民生委員会委員長報告

二〇二

神田 守隆君の討論

二〇四

石井 武敏君の討論

二〇五

古賀礼四郎君の討論

二〇六

採決

二〇七

議案第二十九号、議案第三十三号

二〇八

建設経済委員会委員長報告

二〇八

神田 守隆君の討論

二一〇

栗原 一雄君の討論

二一一

採決

二一一

議案第七号、議案第十三号

二一二

予算審査特別委員会委員長報告

二一二

神田 守隆君の討論

二一五

横溝 功君の討論

二一七

黒川 平治君の討論

二一七

採決

二一八

請願第一号、請願第二号

二一九

総務委員会委員長報告

二一九

継続審査について

二一九

議案第三十六号

二一九

議案の内容説明

二一九

委員会付託の省略

二二〇

採決

二二〇

議案第三十七号

二二〇

議案の内容説明

二二〇

委員会付託の省略

二二〇

採決

二二〇

閉 会

二二一



第一回館山市議定会定例会會議錄（第一号）



一、昭和五十五年三月七日（金曜日）午前十時  
一、館山市役所議場

一、出席議員 二十八名

一 番 神田 守 隆	二 番 石 井 謀
三 番 網 島 憲 治	四 番 横 溝 功
五 番 福 原 勳	七 番 古 賀 礼 四 郎
八 番 石 井 昌 治	九 番 松 下 正 己
一〇 番 穴 戸 寿 夫	一 一 番 林 豊
一 二 番 栗 原 一 雄	一 三 番 近 藤 好 雄
一 四 番 渡 辺 昭 夫	一 五 番 伊 藤 幸 太 郎
一 六 番 押 元 稔	一 七 番 黒 川 平 治
一 八 番 流 山 源 次 郎	一 九 番 石 井 輝 久
二〇 番 石 井 武 敏	二 一 番 吉 田 勇 治 郎
二 二 番 藤 田 益 治	二 三 番 菊 井 敏 博
二 四 番 和 田 一 郎	二 五 番 五十 嵐 昇
二 六 番 伊 賀 多 朗	二 七 番 石 井 正
二 八 番 安 澤 德 順	二 九 番 安 西 益 男

一、欠席議員 一名

三〇 番 山 口 康

一、出席説明員

市 長 半 澤 良 一	助 役 小 倉 澄 男
収 入 役 長 谷 川 広 治	市 長 公 室 長 汐 崎 政 光
総 務 部 長 鈴 木 弘 道	経 済 部 長 太 田 博 雄
民 生 部 長 鈴 木 力	水 道 課 長 庄 司 利 光
教 育 委 員 会 長 山 口 武 重	教 育 委 員 会 長 安 田 豊 作

委員 長 鈴木 正	事務局長 渡 辺 弘
監査委員 斉 藤 一 男	監査事務局長 角 田 巖
農業委員会 長 秋 山 萬 次	農業委員会 石 原 齊
事務局長 高 尾 豊	事務局長補佐 石 井 敏 夫
書記 兵 藤 恭 一	書記 鈴 木 哲
書記 庄 司 徹	書記 嶋 田 範 夫

一、議事日程（第一号）

昭和五十五年三月七日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 会議日程の決定

議案第七号 昭和五十五年度館山市一般会計予算

議案第八号 昭和五十五年度館山市国民健康保険

議案第九号 特別会計予算

議案第十号 昭和五十五年度館山市と畜場特別会計予算

議案第十一号 昭和五十五年度館山市ユースホステル特別会計予算

議案第十二号 事業特別会計予算

議案第十三号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算

議案第十四号 昭和五十五年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

議案第十五号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算

議案第十六号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算

議案第十七号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算

議案第十八号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算

議案第十九号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算



日程第四

議案第十四号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十五号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十六号

館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十七号

館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十八号

館山市奨学資金積立基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十九号

館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十号

新たに生じた土地の確認について新たに生じた土地を市の区域内に編入することについて

議案第二十一号

青色申告都市宣言について館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十二号

館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十四号

館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十五号

館山市保育所条例の一部を改正する

日程第五

議案第二十六号

条例の制定について  
館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十七号

館山市及び三芳村伝染病隔離病舎組合規約の変更にについて

議案第二十八号

館山市と畜場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十九号

館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十号

館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について

議案第三十一号

館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十二号

市道路線の認定について館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十三号

館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三十四号

昭和五十四年度館山市一般会計補正予算(第五号)

議案第三十五号

昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第三号)

議案第一号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定について



日程第六 請願第四号 請願書

開 会 午前十時三分開会

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数二十八名、これより昭和五十五年第一回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長(石井 正君) 本定例会議案審議のため、地方自治法第二十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

なお、監査委員より十一月乃至一月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

○議長(石井 正君) ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長(石井 正君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

一〇番議員 穴戸寿夫君、二〇番議員 石井武敏君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長(石井 正君) 日程第二、会期の決定を行います。本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本三月七日から三月二十八日までの二十二日間ということであり、お諮りいたします。会期を二十二日間と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて会期は三月七日から三月二十八日までの二十二日間と決定いたしました。

会議日程の決定

○議長(石井 正君) 日程第三、会議日程の決定を行います。

お諮りいたします。お手元に配付いたしました会議日程表は、本定例会の大体の日取りの予定であります。が、議会運営協議会の意見により作成いたしました。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともに、その間議案の追加、議事の都合等によりましてその都度これを改めることにして、大体このようにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よつて会議日程は決定いたしました。



## 議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第四、議案第七号乃至議案第三十五号を一括して議題とし、これより昭和五十五年度施政方針並びに議案の提案理由の説明を求めます。

### 施政方針並びに提案理由の説明

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに三月定例会市議会を招集し、昭和五十五年度一般会計及び特別会計の予算案、諸議案につきまして御審議をお願いすることになりましたが、開会にあたり新年度の市政運営に関する所信を申し述べたいと存じます。

本年は千九百八十年代のスタートの年にあたりますが、国は新しい開発の方向として先に第三次全国総合開発計画を発表いたし、この中で地方定住圏構想を打ち出しております。

この定住圏構想は、それぞれの地域で、そこに住む人々が、豊かな生活を享受できるよう、自然、生活、生産環境を整備することを狙いとし、中心となる地方都市の機能を高め、人口の地方定住化を目指す新しい生活圏づくりの構想であります。

また、わが郷土千葉県は、成田空港開港を契機として、大きく飛躍しようとしております。さらに、東京湾横断道路の建設も近い将来事業化の方向にあり、これが完成すれば南房総に及ぼす影響ははかり知れないものがあると考えられます。

このような外部状況の中で、本市を活力に満ちた魅力ある都市とするためには、安房郡市における中核都市としての役割りをよ

り一層果たし得るよう都市機能を高めるとともに、海と花と太陽に恵まれた自然を十分に生かした首都圏の海浜リゾートタウンとしての機能を整備充実することであろうと考えております。

私は、市長就任以来、一貫して「人間尊重」「市民生活優先」を市政の基本理念として「明るく豊かな香り高い文化福祉都市」の実現に向かって努力してまいりましたが、本市の今後の課題は、生活環境、経済、文化等の面で現代に即応する魅力をどう創造し実現していくかが肝要であろうと考えております。

以上の点を踏まえ、昭和五十五年度の当初予算につきましては、今日の地方自治体を取り巻く厳しい諸条件を十分配慮し、健全財政の維持を基本原則として、市民生活の安定、向上を図るべく次の四項目を重要施策として予算編成いたしました。

すなわち、一、住みよい環境づくり、二、福祉社会づくり、三、教育、文化の環境づくり、四、産業の基盤づくり、であります。

以下、主要施策の概要につきまして順次御説明いたします。

第一は、住みよい環境づくりであります。

生活関連施設といたしましては、重要かつ緊急の課題となつておりました衛生センタの建設であります。地域住民の方々をはじめ関係各位の御協力を得まして、昭和五十四年度から三カ年計画でようやく着手する運びとなりましたが、この建設は急務でありますので、国等の関係機関に働きかけ早期完成に努めてまいり所存であります。

道路整備につきましては、道路が市民の日常生活に密着した極めて重要な施設であることから行政需要も大きく、現在、市内の主要幹線道路につきましてはほぼ整備してまいりましたが、モ一



タリゼーションの進展等に対応するため、引き続き地域の実情に即した道路改良及び舗装、また橋梁、下水路等の整備に努めてまいりたいと存じます。さらに、都市計画道路である八幡高井線の建設を促進するため路線測量を実施いたし、その早期実現に努力いたす所存であります。

次に、公園の整備でありますが、現在、本市には都市公園として城山公園ほか五公園があります。それぞれの規模、内容に応じた整備を図っておりますが、市民等のレクリエーション需要に対処するとともに生活環境保全のため自然保護を配慮しながら計画的にその整備を推進することといたしました。

城山公園につきましては、従来からその整備に努め、市民はもとより広く観光客からも親しまれておりますが、これをさらに充実するため総合的な整備計画を策定し拡充してまいる所存であります。

また、沖の島公園につきましても、自然保護を前提とした施設整備を進めてまいります。

さらに、念願でありました県立館山運動公園につきましても着工後三年目を迎え、その進捗状況も順調であります。なお早期完成について関係機関に働きかけてまいります。

次に、上水道整備について申し上げます。

現在、上水道の普及率は三芳水道加入を含め約八二％で一部の未設置地域を残しほぼ給水されております。新年度事業といたしましては、第二次拡張事業として未設置地域である出野尾、岡田、東長田、西長田地区への給水区域の拡充を図る一方、各浄水場施設の整備等改良工事を行い、給水機能の充実を図ってまいります。

次に、第二に福祉社会づくりであります。

防災対策につきましては、館山市地域防災計画に基づき防災体制の強化を図ってまいりましたが、近年、地域における防災対策、特に地震対策は社会問題化しております。このため本市におきましても地震対策基礎調査を五十四年度、五十五年度の二カ年計画で実施いたし、今後の具体的な対応策を講じてまいりたいと考えております。一方、万一の災害時に備え、市民に対する情報収集及び伝達、飲料水確保のための各施設等を計画的に整備すべく、引き続き耐震性井戸貯水装置、災害用浄水機、防災行政無線等を設置し、市民の生命、財産を守るための施策を推進してまいる所存であります。

次に、コミュニティづくりにつきましては、各地域においてそれぞれ特色ある多様なコミュニティ活動が展開され、コミュニティに対する市民の意識、理解のもとにコミュニティ形成へと発展しつつあります。今後とも地区コミュニティ推進活動への援助等を図りながら、連帯意識に支えられたよりよい地域社会の形成に努めてまいります。

福祉対策につきましては、従来からの施策を充実させ推進してまいります。新年度は特に今後の高齢化社会に対応して、高齢者が希望と生きがいのある生活環境が得られるようその基礎づくりとして書道、盆栽、菊づくり等を対象とした趣味クラブを強化、拡充し、その体制づくりに努めながら老人クラブ組織の強化、助長を図ってまいります。

また、長期にわたる在宅寝たきり老人に対して特殊寝台、マットレス、紙オムツ等日常生活用具を無償で貸与、または給付し、



さらに搬送車により特別養護老人ホームの入浴施設を利用した入浴事業を実施いたし、老人福祉の増進に努めてまいります。

健康づくり対策につきましては、生活環境の変化に伴い各種成人病等の増加が見られますが、従来から実施いたしております各種健康診断、健康相談、健康教室、食生活改善等引き続き推進する一方、各種スポーツ教室をはじめ歩こう走ろう大会、なわとび大会、オリエンテーリング大会等幼児から高齢者まで参加し親しめるスポーツの場を広めながら「自分の健康は自分で守る」という自覚と認識を高め、市民の健康づくり対策を積極的に進めてまいります。

次に、第三に教育、文化の環境づくりであります。

学校施設につきましては、年次整備計画に基づき整備をいたしておりますが、その進捗状況は順調に進展し、校舎をはじめ基本的施設のほとんどが急速に整備されてきております。

新年度事業といたしましては、文部省補助対象事業として、九重小学校及び同幼稚園の改築をはじめ、房南中学校柔剣道場の新築、那古小学校屋内運動場を改築いたします。

また、防衛施設庁補助事業といたしまして、船形小学校を改築いたしますが、同時に関連事業として学校用地を拡張いたし、教育環境の整備を図つてまいります。

また、長年の懸案でありました中学校統合問題につきましては、関係各位の協力を得まして、ようやく新年度より第三中学校を開校する運びとなりましたが、これにより本市の中学校教育のより効果的な成果が期待できるものと確信いたしております。

この中学校統合に伴う関連事業といたしまして、第三中学校の

プール建設のほか遠距離通学送迎バスの購入及び通学者に対する補助金を措置する一方、前年度に引き続き幼稚園及び小、中学校にカラーテレビを購入し、教育の近代化を図り、より充実した教育環境づくりに努めてまいります。

社会教育施設関係につきましては、現有施設の整備、充実に図る一方、新規事業といたしまして、南総の文化遺産を保護し、継承する博物館を建設するため「博物館準備室」を設け、昭和五十六年度建設を目的として調査、検討してまいります。

地域の歴史や文化への理解は郷土意識を高め、やがてよりよい未来の地方文化の創造に資するものと考えます。

次に、第四に産業の基盤づくりであります。

まず、農業につきましては、農業の近代化を図るため引き続き県営ほ場整備事業を推進する一方、ほ場整備区域内における公共性の高い幹線道路等の整備にも配慮しながら基盤整備の充実を図つてまいります。

また、水田利用再編対策につきましては、転換水田整備事業等を推進する中で、地域の特性を生かした果樹、園芸等の商品生産を育成するため各種施策を推進いたします。新規事業としてイチゴ生産モデル団地を設置し、品質向上と安定生産を図るとともに、観光と結びついた農業を推進してまいりたいと考えております。

そのほか、農用地保全のための河川整備をはじめ、農道及びかんがい用排水路の整備等、農業の振興を図つてまいります。

水産業につきましては、漁業生産の基地であり、かつ流通の拠点でもある漁港を整備するとともに人工魚礁群の設置や水産動植



物の種苗放流により漁業資源の増殖を引き続き図つてまいります。  
また、館山湾水域における漁業の生産性向上を図るため、昨年度に引き続き館山湾漁場開発研究を実施いたします。この調査は、潮海流、地形、底質をはじめ水産動植物を調査し、有望栽培魚種を明らかにするとともに新型人工魚礁を設置し、有用水産物の種苗を放流して培養的效果を調査するもので、本市が進めております栽培漁業に大きな効果が得られるものと期待しております。

商業につきましては、社会情勢の変化、人々のニーズの多様化の中で地域商業も大きな影響を受けております。本市といたしましても、地域の特性を生かし、安定した商業基盤を確立するため商工会議所等関係団体と十分連携、協調を図りながら経営の合理化、近代化を推進してまいります。

次に、観光につきましては、南房総の観光拠点都市として受け入れ体制の整備に努める一方、観光客誘致のための各種事業を推進いたしております。

新年度事業といたしましては、引き続き自然環境を考慮しながら、フラワースライン沿道の花卉植栽をはじめ、花つみ園の造成、館山の風物詩である地曳網まつり、城山公園の整備等地道な活動を重ねるとともに首都圏周辺を中心とした観光キャラバンをはじめ、報道機関等を活用した宣伝を行い、多季型観光地づくりに努めてまいります。

以上の施策を中心として、昭和五十五年度一般会計予算の編成を行った結果、歳入歳出予算の総額は八十四億七千五百六十万円で、前年度当初予算に対し四億五千七百七十余円の増額となり、五・六三%の伸張率となつております。

次に、歳入予算の内訳について申し上げます。

まず、歳入の柱であります市税につきましては、経済の動向を勘案いたしまして、二十八億九千八百八十余円を計上、前年度対比二億五千三百五十万余円の増、構成比は三四・一二%であります。このほか地方譲与税九千三百四十万円、娯樂施設利用税交付金三千三百万円、自動車取得税交付金八千八百万余円、国有提供施設等所在市町村助成交付金五千七百六十万余円、地方交付税十三億六千二百五十万円、構成比一六・〇八%、交通安全対策特別交付金九百万円、分担金及び負担金一億二百六十万余円、使用料及び手数料は、幼稚園使用料を国の基準までの引き上げ分を含み一億七千九百二十万余円、国庫支出金十六億一千六百九十余円、構成比一九・〇八%、県支出金四億四千六百七十余円、財産収入三千三百三十万余円、寄附金一千三百九十余円、繰入金八千万円、諸収入二億一千四百四十万余円、市債十二億五千二百九十万円、構成比一四・七八%をそれぞれ計上いたしました。

これら歳入のうち、特に地方交付税と市債につきましては、国が地方財政対策として、昭和五十五年度の地方財源不足見込額二兆五百五十億円について、地方交付税を一兆二百五十億円増額し、残り一兆三百億円は、建設地方債の増発により補てんすることから、これらを勘案して計上いたしました。

そのほかにつきましては、前年度の実績等により積算いたしましたものであります。

次に、歳出予算の内訳について申し上げます。

まず、歳出予算の性質別についてであります。人件費二十二億四千七百六十万円、構成比二六・五%、物件費七億二千八百



六十万余円、構成比八・六%、扶助費十二億二千六百六十万余円、構成比一四・五%、補助費六億二千九十万余円、構成比七・三%、普通建設事業費二十八億二千六百七十万余円、構成比三三・四%、公債費五億一千五百六十万余円、構成比六・一%、その他三億九百二十万余円となっております。

以下、各款別にその概要を申し上げます。

第一款、議会費は、議会運営に要する経費として一億四千九百四十万余円、前年度対比六百五十万余円の増となっております。

第二款、総務費は、コミュニティ推進事業費の増額と参議院議員選挙費、国勢調査費のほか、一般管理費、文書広報費、企画費、交通、防犯関係費、徴税費等の経費として九億六千七十万余円、前年度対比四千六百四十万余円の増となっております。

第三款、民生費は、地域ぐるみ福祉活動費、福祉作業所運営費、寝たきり老人等入浴サービス事業費、社会福祉費、老人福祉費、児童福祉費、生活保護費等で十六億七百五十万余円、前年度対比三千三百十万余円の減となっております。この減の理由につきましては、九重保育園、福祉作業所建設費等の減によるものであります。

第四款、衛生費では、継続事業である衛生センター建設費の第二年度分として七億二千八百六十万余円を計上するとともに、水道事業特別会計へ出野尾、岡田、西長田、東長田の各地区を対象に実施する第二次拡張工事のほか、浄水場等、施設能力の改善、充実を図るための事業費等に充てるため一億八百九十万余円の繰出金を計上し、さらに五十四年度に引き続き健康づくり推進事業費を計上したほか、乳幼児医療給付金、各種予防接種、結核、ガ

ン等の検診事業費、正木及び藤原衛生処理場の維持管理費、排水路清掃費、環境保全公社出捐金等で十三億八千九百二十万余円、前年度対比八千八百四十万余円の増となっております。

第五款、労働費は、勤労者厚生対策預託金、勤労者団体補助金等、勤労者の福祉厚生増進を図るための経費として七百二十万余円を計上しております。

第六款、農林水産業費は、農業費として、野菜指定産地整備近代化事業、うまいくだもの作り推進事業、いちご生産振興対策事業、畜産複合地域環境対策事業、水田利用再編対策転換水田整備事業、農免道路整備事業、小規模土地改良事業等の投資的経費に對して補助金を計上するとともに、農業施設及び農地農道保全のための河川護岸工事費、農業用施設等補修用材料費等を計上いたしました。

水産業費の主なもの、水産業近代化施設設置事業、水産増殖事業、あわび中間育成用築磯事業等に対する補助金を計上し、引き続き育てる漁業を推進するとともに、市管理漁港整備費並びに県営漁港整備事業負担金等漁業の近代化を図るための経費を計上し、総額四億五千五百十万余円、前年度対比一億六千五百九十万余円の増となっております。

第七款、商工費は、引き続き商工会議所建設費補助金、中小企業融資預託金等を計上いたしました。また、観光費については巴川橋梁新設工事費、海岸清掃整備用ビーチクリナー購入費等を計上いたしました。総額一億八千九百二十万余円、前年度対比一億二千八百八十万余円の減となっております。

この減の理由は、騒音防止対策事業補助の商工会議所建設費と



国民宿舍特別会計への繰出金の減によるものであります。

第八款、土木費は、前年度に引き続き館山運動公園の整備負担金、城山、沖の島両公園の整備経費のほか、道路新設改良費、河川排水路整備費、港湾整備費、都市計画事業費等で総額七億七千七百七十余円、前年度対比二千三百八十余円の増となっております。

第九款、消防費は、防火水槽六基、詰所新築三カ所、中型消防自動車一台等、消防団関係経費並びに常備消防関係の負担金等で総額二億九千六百三十万余円、前年度対比一千七百四十万余円の増となっております。

第十款、教育費は、義務教育施設の整備として第一期船形小学校校舎防音改築、九重小学校校舎改築、那古小学校屋内運動場改築、第三中学校校舎新築の第二年度分、房南中学校柔剣道場建設等を、また第三中学校の開校に伴い九重地区から通学する生徒に対するスクールバス運行経費、幼稚園関係では九重幼稚園園舎改築と、全国にカラーテレビ等の備品を設置するための経費等を、社会教育関係では博物館設計委託料、市民センターの管理運営業務委託の経費等を、保健体育関係費では市民運動場、市民体育館、第四中学校跡地等の整備経費を計上し、総額二十億三千九百九十余円、前年度対比一億九千四百三十万余円の増となっております。

第十一款、災害復旧費は、農林水産施設災害復旧費、土木施設災害復旧費等で四千五百二十万余円を計上いたしました。

第十二款、公債費で五億一千五百八十余円、第十三款、諸支出金で二千七百七十余万、第十四款、予備費で二千万円をそれ

ぞれ計上いたしました。

以上で、一般会計当初予算に計上した概要について申し上げますが、今後の補正財源の見込みといたしましては、特別交付税、前年度繰越金、市債等があります。これらは補助事業等の追加に伴う財源に、また職員の給与改定について当初予算計上が二％でありますので、人事院勧告がこれを上回った場合並びに当初予算でできなかった事務事業等の財源として充当いたしたいと考えております。

次に、継続費として衛生センター建設費、債務負担行為として船形小学校校舎防音改築工事費及び監理委託料について設定し、地方債としては、衛生センター建設事業ほか十七件、また歳計現金の一时的不足に備えて一時借入金金の最高限度額を八億円と定めることといたしました。

以上が議案第七号の概要でございますが、次に議案第八号から順次その概要を申し上げます。

まず、議案第八号昭和五十五年度館山市国民健康保険特別会計予算について申し上げます。

国保事業につきましては、医療技術の向上による高度な医療が行われることによる増と、受診割合等を考慮いたしまして医療給付費が微増するとの判断により積算いたしました。

国民健康保険税については、特定財源を的確に把握した上で積算しておりますが、本算定までは流動的な要素もありますので、その時点で十分な検討を加え、住民の負担軽減を図る考えであります。この結果、歳入歳出それぞれ十八億四千四百二十万余円を計上いたしました。



次に、議案第九号昭和五十五年度館山市と畜場特別会計予算であります。冷蔵庫の補修工事を行うとともに冷蔵庫使用料金の引き上げをお願いして本会計の独立採算の確保に努める所存であります。

以上により歳入歳出それぞれ一千二百八十余円を計上いたしました。

次に、議案第十号昭和五十五年度館山市ユースホステル特別会計予算であります。歳入歳出それぞれ一千七百六十万余円を計上いたしました。

次に、議案第十一号昭和五十五年度館山市学童災害共済事業特別会計予算であります。歳入歳出それぞれ二百三十万余円を計上いたしました。

次に、議案第十二号昭和五十五年度館山市水道事業特別会計予算であります。収益的収入につきましては、水道料金、その他一般会計からの補助金等で四億八千六百余円、資本的収入として企業債のほか、一般会計からの出資金等で三億九千四百九十余円、収入合計八億八千七十余円、これに対し収益的支出として営業費用、企業債利息等で四億五千三百七十余円、資本的支出として水道施設等工事費、企業債償還金等で三億九千四百九十余円、支出合計八億四千八百七十余円をそれぞれ計上いたしました。

本年度事業の主なものは、第二次拡張工事として、配水管等布設工事と見物浄水場ほか六カ所の改良工事であります。

次に、議案第十三号昭和五十五年度館山市国民宿舎事業特別会計予算であります。本年度は地方公営企業法の適用を受けて営

業を再開いたしますので、歳入歳出それぞれ一億五千九百五十万余円を計上いたしました。

次に、一般議案についてその提案理由を申し上げます。

まず、議案第十四号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例は、昨年四月に一部改正を行ったところでありますが、各種委員等会の委員及びその他の特別職の報酬について、月額報酬額、日額報酬額及び年額報酬額にわたりその額を見直し、本年四月一日から改正しようとするものと、さらに適切な行政を推進するため、地方自治法第七十四条の規定による専門委員として、参与制度を採用いたしたく、このための報酬の額を定めようとするものであります。

次に、議案第十五号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第十六号館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本市一般職員等の普通旅費は県下各市の中でも低位にあり、さらに国は五十四年四月に、県におきましては五十四年七月に全面的に改正されましたので、これらを考慮いたしまして、県下の市の平均水準に改めようとするものであります。

改正の主な点は、日当、宿泊料等の定額を引き上げること及び急行料金を支給できる基準を国に準じて改正しようとするものであります。

なお、非常勤特別職及び教育長については、それぞれ常勤特別



職及び一般職員の規定が適用されることになっておりますので、自動的に改正規定が適用されることとなります。

次に、議案第十七号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、職員が危険、不快等その他特殊な業務に従事する場合に特殊勤務手当を支給しておりますが、今回現場業務について現行規定の見直しを行ったところ、ごみ処理場の焼却作業に従事する職員等について特殊勤務手当を支給することが適当と考えられますので、支給対象となる範囲等を改正しうとするものであります。

次に、議案第十八号館山市奨学資金積立基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、今回奨学資金積立基金の備蓄により、独自の基本運営が可能となったため、従来の基金積立金の制度を運用基金制度に切り替え、事務の合理化と確実かつ効率的な運営を行うため、条例の一部を改正しようとするものであります。

次に、議案第十九号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、消防団員の日夜にわたる献身的な活動に比べると、士気の高揚と体制の充実を期待するため、消防団員報酬額を改正しようとするものであります。

次に、議案第二十号新たに生じた土地の確認についてですが、昭和五十五年二月四日付け港管第二〇六号をもつて千葉県知事から公有水面埋立てに伴う新たに生じた土地の確認及び字区域の設定について依頼があったので、地方自治法第九条の五第一項の規定により、館山市館山字北下台九五番の一一地先から同九五番の一二地先までの公有水面埋立地五千三百十二・二〇平方メ

ートルの土地について、市の区域内に新たに生じた土地として確認の上、千葉県知事に届け出ようとするものであります。

次に、議案第二十一号新たに生じた土地を市の区域内に編入することについてありますが、議案第二十号をもつて新たに生じた土地の確認をお願いした館山市館山字北下台九五番の一一地先から同九五番の一二地先までの公有水面埋立地五千三百十二・二〇平方メートルの土地を地方自治法第二百六十条第一項の規定に基づき館山市館山字北下台に編入の上、千葉県知事に届け出ようとするものであります。

次に、議案第二十二号青色申告都市宣言についてありますが、近年の厳しい社会情勢に対応した都市づくりと市民福祉の増進を図るためには納税の意義が極めて大なるものがあります。

青色申告制度が発足して以来、関係諸団体の努力と市民の自治意識の高揚により税の重要性が深く認識され、正しい自主申告による納税が理解され実現されようとしています。

青色申告は、正しい記帳をすることによつて、事業経営の実態を明確に把握し、制度の特典を十分に活用しながら経営の合理化を促進し、生活の安定を図るとともに、税務行政の理念とする税負担の公平と適正課税の実現を期待するものでありますが、これが普及についてより強力に推進し、地域社会の発展と明るい税務行政の実現を期するために、館山市全域を「青色申告都市」とすることを宣言しようとするものであります。

次に、議案第二十三号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてありますが、教育兼務職員手当につきましては、昭和五十二年四月に改正を行ったこと



ろでありますが、今回県下市町村の幼稚園長兼務手当の状況を検討いたしました結果、現行の額を改正しようとするものであります。

次に、議案第二十四号館山市立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。前回が幼稚園保育料について三千六百円の方針を出したことを勘案し、本市といえども幼稚園の施設設備の充実を図るため現行二千五百円から三千六百円に改正しようとするものであります。

なお、四歳児については、昭和五十五年四月一日から、五歳児については昭和五十六年四月一日から実施しようとするものであります。

次に、議案第二十五号館山市保育所条例の一部を改正する条例の制定についてであります。昭和五十五年三月に完成する園舎改築に伴い、九重保育園の位置に変更が生じたため、条例の一部を改正しようとするものであります。

次に、議案第二十六号館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回市民センターの管理運営について、経営の合理化あるいは直接管理の効果などを検討した結果、市民センター利用者へのよりサービスの向上と、施設管理等の効果的達成を期待するために公共的団体に委託することが適切であると考え、市民センターの管理及び運営の一部を社会福祉法人館山市社会福祉協議会に委託するため、条例の一部を改正しようとするものであります。

なお、委託業務の内容につきましては、通常の管理運営に関する業務を予定しており、本年四月一日から委託を行おうとするも

のであります。

次に、議案第二十七号館山市及び三芳村伝染病隔離病舎組合規約の変更についてであります。本年二月館山市及び三芳村伝染病隔離病舎組合管理者より、館山市及び三芳村伝染病隔離病舎組合の規約の変更について協議の申し入れがありましたので、地方自治法第二百九十条の規定により市議会の議決を経て、千葉県知事の許可を受けようとするものであります。

変更の理由としては、白浜町、千倉町、丸山町及び和田町が新たに館山市と三芳村で構成している館山市及び三芳村伝染病隔離病舎組合に加入したいというものであり、これにより組合の名称、組合を構成する市町村、及び組合議会の議員の定数等所定の事項について規約の変更をしようとするものであります。

次に、議案第二十八号館山市と畜場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。館山市と畜場冷蔵庫施設は、最近冷蔵庫機能が著しく低下し、現状では使用が困難な状態となりましたので修理し、機能の向上を図りたいと考えておりますが、と畜場会計は独立採算制であり、現行料金体系では安定した収入を見込むことが困難なため、冷蔵庫使用料を昭和五十五年五月一日から改正しようとするものであります。

次に、議案第二十九号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。国民宿舎利用料の算定については、国民宿舎利用基準及びその取り扱い等について、昭和五十二年二月四日付け環境庁通達により所定の利用料が定められておりますが、今回鳩山荘の改築に伴い、木造建の場合の宿泊料金から鉄筋コンクリート建の場合の宿泊料金に改正する必要



があり、これにあわせて施設整備に伴う冷暖房料金及び特別室利用料金についても所定の料金を新たに設け、昭和五十五年四月一日から施行しようとするものであります。

なお、特別室利用料金は、バス・トイレ付きの室にあつては普通宿泊料金の五割、トイレ付きの室にあつては二割の加算を行おうとするものであります。

次に、議案第三十号館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定についてであります。が、公衆電気通信法施行令の一部改正に基づき、館山市道路占用料徴収条例、館山市都市公園条例及び館山市漁港管理条例中、電柱類占用料の金額「四百二十五円」を「五百五十円」に改正しようとするものであります。

次に、議案第三十一号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。が、昭和五十三年度より二カ年計画により施行した那古市営住宅建替工事のうち、昭和五十四年度分一般住宅十六戸第一種市営住宅が三月に完成するので、条例の一部を改正しようとするものであります。

次に、議案第三十二号市道路線の認定についてであります。が、道路法第八条第二項の規定に基づき、南安房公園線及び二子寺谷線を市道として認定をしたいというものであります。

なお、延長は、南安房公園線が六千七百十六・三メートル、二子寺谷線が三百八十五メートル、幅員は、南安房公園線が四・五メートルから九・二メートル、二子寺谷線が四・〇メートルであります。

次に、議案第三十三号館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定についてであります。が、第一次拡張事業の完成によ

り水道施設は整備拡充されましたが、事業の効率的な運営と安定した給水を図るため、昨年十二月水道料金の改定について水道事業審議会に諮問、その答申に基づき、今回水道料金並びに手数料の一部及び加入者分担金をそれぞれ改正しようとするもので、水道料金の改正規定は昭和五十五年五月検針の日から、その他の改正規定は昭和五十五年四月一日から施行しようとするものであります。

次に、議案第三十四号昭和五十四年度館山市一般会計補正予算第五号であります。が、歳入歳出それぞれ四百五十万を減額し、総額八十五億六千四百万余円とするものであります。

歳出追加の主なものは、赤字地方バス路線を維持するための補助金として四百五十五万円、事業計画の変更による県道改良工事負担金七百九十六万円、市民文化向上と都市美化推進のための造形作品購入費等として三百五十万円、公共用地の先行取得を効果的に行うために、土地開発基金繰出金で一億三千万三千円等であります。

また、歳出予算の減額補正といたしまして、受給者の平均医療給付費の減少と医療費の改定が行われなかつたことにより、老人医療扶助費で五千七百五十五万二千円、医療扶助費で四千九十三万七千円、事業計画の変更により漁港修築等工事負担金で四百四十三万九千円、花つみ園の植栽委託変更により、郷土美化植栽委託料で四百六十万円、第三中学校建設費の運動場整備工事請負費等で六百万一千円、地方債の借入時期の変更により、公債費で百九十二万六千円が減額の大きなものであります。

この財源補正については、地方交付税、市債等で七千四百四十



七万五千円の追加、国・県支出金、諸収入等で七千九百六万三千円の減額であります。

なお、このほか地方債の補正があります。

次に、議案第三十五号昭和五十四年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第三号であります。本年度六月定例議会で国保税の軽減について御説明いたしましたとおり、前年度繰越金及び国庫支出金八千六百万円を財源といたしまして国民健康保険税を八千六百万円減税しておりますので、今回この補正をしようとするものであります。

以上が今回提案いたしました議案の概要であります。なお、この際当面する諸問題について申し上げます。

まず、ごみ処理場の建設でございますが、懸案となっております。また、尿処理場の建設が関係者の理解、協力によりまして、昭和五十六年度を目途に建設の見通しがつきましたので、今後はごみ処理場建設用地の確保と早期建設に努力してまいりたいと考えております。

次に、交通網の整備でございますが、国道一二七号館山バイパスにつきましては、那古地区の県管は場整備区域内における道路用地の買収が行われましたが、いまだ一部未測量部分がある現状でありますので、この事業の促進を国にお願いとするとともに、地権者のもとより、地域住民の理解と協力を得ながら推進してまいりたいと考えております。

また、内房線複線化、房総縦貫道路計画につきましても関係機関に対し、積極的にその実現方を働きかけてまいります。

都市問題につきましては、都市計画に関する基礎的な調査、研

究をしてまいりましたが、新年度は都市開発室を新設し、組織の充実を図り、さらに研究、検討を重ね、南房総地域の近代的中核都市実現に努力してまいりたいと考えております。

次に、館野、九重地区の水道の設置についてでございますが、本年度未給水地域でありました東長田ほか三地区に水道布設を実施いたしますと残る未給水地域は館野、九重となります。この地域の水源を確保するため、地質調査、ボーリング調査等実施し検討してまいりましたが、地域内の水質は水道水として適当でないと判断いたしました。この水源をどう求めるか、さらに調査、検討し、早期にこの解消を図つてまいりたいと考えております。

最後に、コミュニティ会館の建設でございますが、この建設は第三中学校と合わせ建設すべく計画を進めてまいりましたが、第三中学校、コミュニティ会館双方の将来を考えますとき、それぞれの用地面積が十分でないと考え、このためコミュニティ会館建設用地を別に確保すべく候補地、地権者との折衝を進めておりますが、この見通しがつき次第関係機関との調整を図りながら、建設に着手したいと考えております。

以上、私の所信とこの度提案いたしました案件の概要を説明いたしますとともに、当面の諸問題について報告いたしました。詳細につきましては、御質問に応じ、私または事務担当者からお答えいたします。

よろしく御審議くださるようお願いいたします。

議長（石井 正君） 以上で施政方針並びに議案の提案理由の説明を終ります。

## 議案の上程



○議長(石井 正君) 日程第五、議案第一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

#### 総務委員会委員長報告

○議長(石井 正君) ただいま議題となりました議案は、去る一月開会の第一回市議会臨時会において、総務委員会に閉会中の継続審査に付されたものであります。

よつて、これより本案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長松下正己君。御登壇願います。

(総務委員会委員長松下正己君登壇)

○総務委員会委員長(松下正己君) 去る一月二十九日開会の臨時市議会におきまして継続審査となり本総務委員会に付託されました議案第一号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例等の一部を改正する条例について、二月八日、二月二十二日の両日にわたり委員会を招集し、全員出席のもとに審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、審査結果について申し上げます。本案については全員一致をもって修正可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について申し上げます。

まず、最初に本議案について、三つの条例のものを「等」ということで一つの議案として提案されているが、それぞれ条例の人格を異にしたものであり、提案方法に問題はないかと聞きましたところ、職務、責任分野はそれぞれ異なるが、改正しようとする

内容そのものは役務の対価を変更しようという同一の趣旨であるので一つの条例でお願いしたとの説明がありました。

さらに、好ましくないということ、五十三年六月議会では別に提案しているが、条例の人格が異なるので同じ角度の審議はできないと思うが、その点についてはと聞きましたところ、条例をつくる技術としては今回提出したような方法も間違いないと思うが、性質は確かに異つておるので、今後検討してそのような方向でやつていきたいとの前向きな答弁がなされました。

次に、県下における人口構成が館山市に類似した市の非常勤特別職の給与の最近の趨勢と三月定例会を見通しての各市の動向について尋ねましたところ、皆さんのお手元に配付してございます特別職報酬等調べが提出されました。

次に、五十三年六月の総務委員会において、国家公務員の給与のアップに伴つて特別職の報酬等を見直すべきであるという考え方が打ち出され、市当局は前向きに検討する旨の答弁があつたが、今後市当局としてはどのように考えているかを聞きましたところ、県人事委員会勧告にならつて市職員もベースアップを行つている、そうすることにより一般職の給与が常勤特別職の給与を上回り、給与体系上まずい面が出てきており、今回もそのような事実が出ておる。そのような事態を踏まえて、物価上昇、一般職のベースアップ等を考へて毎年上げるべきだと考えている。何年も経つと上げ幅が大きくなり市民の批判を浴びることにつながり、毎年小幅に上げるのが妥当であるとの答弁がなされました。

さらに、市民批判というが、報酬審議会で審議して妥当であるということであるから、市民がこれを妥当であると認めたと判断



したいが、この点についてはと説明を求めましたところ、報酬審議会の御意見は市民の声を代表するものであり、そのように考えておるとの説明がありました。

次に、審議会に対しての諮問の理由についてと、さらに慎重審議していただくということで時間的な余裕について問題はなかったのかを聞きましたところ、前回改正されて一年半を経過しておるとのこと、その間当市の消費者物価指数が七・九％上昇しているということ、その間一般職については二回給与改定が行われ、一般職最高者が収入役の給与を上回っていること、五十四年に入り各市それ相応の引き上げが行われており、以上を総合的に考えて現在提案している額について審議会に諮問した。諮問の時期については各市の状況を勘案して十二月という考え方もあったが、二十一日の審議会において趣旨及び各市の状況等を説明し、各委員からの質問が行われ、その日に答申をいただいたので問題はなと思うと答弁がなされました。

次に、報酬アップの提案について当局の考え方について尋ねましたところ、特別職の報酬、給与の基準については、これという基準はないが、やはり物価指数の問題、一般職のベースアップの状況、他市との状況比較、そういうものを考え、また議員と常勤特別職の違いについては常勤特別職の場合は生活給という要素も考慮しなければならぬし、議員の場合には議員としての職務を十分果し得るだけの報酬というものを考えなくてはいいけないと思う、そういうことで今回六％アップが妥当であると考え提案したとの答弁が市長よりなされました。

次に、報酬審議会は市民の声を代表する場であるという説明が

あつたが、一方では市民感情がまずいとの意見もある、市当局は市民感情のとらえ方についてどのような考えを持っているか市長に尋ねましたところ、報酬審議会の意見を聞くことによつて市民意識をとらえるというように考えている、いま二〇％も三〇％もアップしたら報酬審議会の了解はもちろん得られなかつたとの答弁がありました。

次に、このアップに対し、市区域内の公共団体を代表する方五名、学識経験者五名からなる審議会の答申に基づいて提案されていると思うが、もし問題あるならば一度審議会で検討してみたいと考えていないかを尋ねましたところ、消費者物価指数、人口、財政規模の類似している団体との特別職の給料の比較、過去における特別職の改定状況、一般職の給与状況等を提出して時期や引き上げ額がどうであるかを御審議願つて妥当であるという結果を得たので、再審議しても結果は同じであると思うと説明がなされました。

次に、報酬審議会はいかなる理由で設けられているか、またいつの時点で設けられたか、さらに一月二十一日に行われた審議会の審議の過程について尋ねましたところ、特別職の報酬等について民意を反映して慎重に対処すべきであるという趣旨の自治省事務次官の通達が三十九年五月にあり、それに基づいて当市では昭和三十九年の十二月に審議会を設置し、市民各層の意見が公平に反映されるような委員の選出をしている、一月二十一日の報酬審議会における発言の要旨は、一つ、今回の諮問の額は高いものとは思わぬ、二つ、財政規模、人口等類似している富津市と比較してもそれほど高くはない、三つ、現在の物価高からすればこの程



度なら適当ではないか、四つ、職員の最高と収入役の差がすぐ追いついてしまふ、毎年上げるようにしたらどうか、五つ、民間給与の実態を良く把握し、市民のことも考慮に入れるよう、との説明がありました。

次に、報酬審議会に諮問する方法について説明を求めましたところ、諮問の仕方として額を全く示さないで資料のみを提出する方法とあらゆる資料から検討した結果を提出する方法と二つあるが、金額を示さないで資料のみだと非常に時間がかかるし、またあらゆる角度から検討した結果を明示したほうが比較的判断しやすいということで従来からやっていたが、しかし今後検討していきたいと前向きな答弁がありました。

次に、報酬審議会の委員選任については推薦によるものか、市独自で人選しているのか、また諮問する案は誰がつくっているのか、またそれはどのような根拠に基づいてつくられているのかと説明を求めましたところ、委員選任については各団体から推薦を願ひ市長が選任している、また諮問案については、人事課が事務局として草案はつくるが最終的には市長等に相談し額を決めている、その際消費者物価の上昇率、人口規模、財政規模、財政力等が類似している市との比較、さらに類似市の各職の年額所得など総合的に判断していると説明がありました。

次に、いままでの説明によると、権威ある審議会の答申であり満場一致で賛成ということに対しては、審議の参考にすべきであると思うが、今後の運営についてどのように考えていくのか説明を求めましたところ、今後特別職の報酬等については人事院勧告と合わせて改定すべきではないかという前回の報酬審議会の答申

があり、さらに前回の総務委員会においても議決機関の議員の職責及び実態を市民に理解でき得るよう周知を図るとともに、改定にあつては一般職の人事院勧告に合わせて直していく考え方を検討されるようにとの要望があつた。市当局としては、そのような要望に沿つて今回提案したものであるが、それに関する資料等についてはあらゆる面のデータを収集し、審議会の運営が円滑に行われるようにしたい、特に議員報酬については常勤特別職の給料と質を異にしているのでそういう点を十分勘案し、今後万全な配慮をして、あらゆる面について努力していくとの非常に前向きな、かつ納得でき得る答弁がありました。

次に、附則第一項の施行期日の関係についてどのようになるのかの説明を求めましたところ、第二条の教育長についてはいままで支給していた給料、手当等も含めたものを総括的に給料ということで算定して改正しようとする趣旨であり、一月についてすでに教育長に扶養手当、住居手当が支給されていた事実があつたので、二月一日からということで提案をした。二月についても扶養手当、住居手当が支給されているわけで、このまま適用になつた場合のことを前提として考えると、改正条例では給料であり、現行条例で支給したのは給料と手当であることから内容的な面で重複するような面があるけれども、いわゆる規定上の給料と手当というふうに分けて考えた場合、差額が支給できるのではないかと考えていると説明がありました。

次に、市当局は、附則について再検討する用意があるか、議員を含めて施行期日をどうするのか説明を求めましたところ、市としては原案どおり決定していただくようお願いしたいとの答弁が



ありました。

ここで、和田一郎委員より修正案が提出されました。修正理由については、本条例案は市民の代表からなる特別職報酬等審議会における慎重な審議の結果、妥当である旨の答申を得て議会に提案されたものであり、これを尊重することは当然である。しかしながら議会は議会としての立場から対応すべきであることは言うまでもない。よつて本会議における審議の状況、本委員会における審査の経過等から考えて、本条例については施行期日を昭和五十五年四月一日とし、同日から報酬等の改定を行うことが最も適当であるとするものであります。

次に、修正内容であります。附則第一項「施行期日 この条例は公布の日から施行し、昭和五十五年一月一日から適用する。

ただし、第二条の改正規定は昭和五十五年二月一日から施行する」とありますのを、「この条例は、昭和五十五年四月一日から施行する」に改め、附則第二項を削るといふものであります。

採決の結果、本修正案を全員一致をもつて可決し、修正部分を除く部分については全員一致をもつて原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で本総務委員会における審査の経過を申し上げ、満場の皆さまの御賛同を賜りますようお願いし、委員長報告といたします。

○議長（石井 正君） 以上で委員長報告を終わります。

#### 委員長報告に対する質疑

○議長（石井 正君） ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

○一番（神田守隆君） ただいまの委員長報告について質疑をする

わけであります。この問題は一月の臨時会で委員会の継続審議ということになったわけで、そのこと自体きわめて異例のことだというふうに思うわけですけれども、ただ実施時期を四月にずらす、こういうことで、提案の内容がそのまま委員会可決という点とで、大差納得しがたいわけでありまして。

そこで、一番大きな問題となる点は、この特別職の報酬、これは一般の職員の給与とは性格を異にして、直接住民に責任を負うそういう立場に議員あるいは市長あるわけですから、報酬審の答申ということがあるとは言え、十分市民の納得が得られるものかどうかということが最大のポイントではないかというふうに思うわけです。

その点で、報酬審の経過については御説明があつたわけですが、特に委員会が公聴会を開くというふうなことをして、住民の意向をこういう問題について十分聞いてみようではないか、こういうような論議はいまの報告ではなかつたように承るわけですが、そのへんについてのお話もなかつたのかどうか、ということをお願いしたいと思います。

○総務委員会委員長（松下正己君） そのような話はありませんでした。

○議長（石井 正君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

#### 討

#### 論

○議長（石井 正君） これより討論に入ります。



通告がありますので、発言を許します。

一番神田守隆君。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) 私は、この議案に反対の討論をいたします。私は、市長の給料を五十二万円から五十五万円に引き上げる必要はないというふうに考えます。また、議員の報酬も二十万円から二十一万五千円に引き上げることについては、その必要はないというふうに考えるわけであります。

引き上げの論拠とされているのは、一般職員の給与が改定されたこと、また他の地方公共団体においても、自治体においても引き上げていること、あるいは消費者物価が上昇していることなどを理由としてあるわけでありますが、先ほど申しましたけれども、市長や議員の報酬というものは、直接市民の負託を得て市長になり、あるいは議員になつてゐるわけであつて、市民に直接責任を負う、こういう立場から、報酬審の答申を得たからといって、それが直ちに市民の声だということで安易に引き上げられるべきではないというふうに考えるわけであります。十分に市民の納得を得られるようにすべきであり、現在時点で市民の納得が得られてゐることはどうも考え得ないわけであります。

総務委員会において付託されたところですから、そこにおいて十分な審議がされたということは、いまの報告の中にもうかがえるわけでありますが、せめて公聴会を開くというようなことで、直接議会が、委員会が市民の声を聞く、こういう機会を持つべきである、ということが必要だつたのではないかと考えるわけですから、引き上げの論拠と、その三点についてもそれぞれ賛成し得ない

ものです。あまりにも形式的な論議だというし、それを免れないと思つます。

一般職員の給与が改定された、それに伴い——あるいは市長が職員の給与より安くなるということが私はあつてもよいというふうに考えます。市長は市の行政の最高の責任者であります。しかしながら市長は市民の負託を得て市長になつたのであるわけですから、二十年、三十年と市の職員を務めて係長なり、課長になり、それぞれ務めあげて、それに連れて給与も上がつてきた一般職員とはその成り立ちが違つてあります。市の最高責任者だから最高の報酬というような形式的な比較からその報酬は考えるべきではないというふうに思うわけであります。

他の公共団体も上げているから、というようなことは、館山市は館山市の立場から考えるべきで、これが地方の政治家として当然ではないかと思うわけであります。

さらに、消費者物価の上昇ということを挙げてゐるわけですが、この消費者物価の上昇という問題は誰にでも平等にその上昇の打撃というものが加えられるわけではありません。その最高の打撃を受けるのは実は低所得層であります。五十万円を超え——私は高給だと思ひます。そういうような市長の給与ですら、消費者物価の上昇がそのまま生活を直撃するといふものではないといふふうに考えます。高給者ほどその打撃が少なく、これが消費者物価の上昇であります。

私は、昨年の選挙前まで市内にある富士ディーゼンに務める労働者でございました。労働組合の調査によると、平均年齢四十一・二歳、扶養一・六三人ということで、平均ベースは十五万二千



三十三円であります。議員の報酬は社会の勤労者の平均的な賃金水準と議員としての活動費を考慮して考えられるべきだというふうに考えます。その際市民の十分な納得を得ることは当然のことです。ありますが、こうした立場から、現行の議員報酬二十万円を見たとき、地域の賃金水準を考慮して考えれば、あえて引き上げる必要はないと考えるわけであります。

最後に、来年度予算、これは市民にとつてまことに負担増を強いられる苦しい予算案であるというふうに考えられます。水道料金、あるいは幼稚園の保育料、給食問題、こうしたものがすべて値上げの案という形で出されているわけであります。こうした中で市長や議員に求められているのは、市民生活を守るといふ政治姿勢を示すことではないかというふうに考えます。こういうときに市長や議員が報酬の引き上げをすることは、市民の目から見ても実に残念なことだと映るのではないのでしょうか。この点を強調いたしまして反対の討論といたします。

○議長（石井 正君） 以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案に対する委員長長の報告は修正であります。本案を委員長長の報告のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（石井 正君） 起立多数であります。よつて本案は委員長長の報告のとおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（石井 正君） 日程第六、請願第四号請願書を議題といたします。

## 請 願 書 の 訂 正

○議長（石井 正君） この際申し上げます。

ただいま議題となりました請願第四号請願書中、湊川とあるのを平久里川に訂正したい旨請願代表者から申し出がありました。お諮りいたします。本申し出を許可することに御意議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて決定いたしました。

## 建設経済委員会委員長報告

○議長（石井 正君） ただいま議題となりました請願書は、去る十二月開会の第四回市議会定例会において建設経済委員会に閉会中の継続審査に付されたものであります。よつてこれより本請願書に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君。

（建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇）



○建設経済委員会委員長（流山源次郎君） 昭和五十四年十二月の定例会で建設経済委員会に付託されました請願第四号館山市内湊川河川敷整備並びに附帯道路の建設についての継続審議の件を本年二月二十七日午前十一時より委員会を招集し、慎重審議の結果通称名である湊川を平久里川に変更していただいて、請願第四号は全員一致採択すべきものと決しました。

以下、審査の結果並びに主な経過について御報告申し上げます。この請願における所管の問題につき、実質的には護岸は県であり、避難用道路は市と二つの性質があるのではないかとの質問に対して、何としても護岸、河川敷の整備が第一であり、その上県の通行許可がおりたとき、当然市としても緊急避難道等地域住民のためにも橋、道路の整備は必要であり、考えなければならぬと思う旨の答弁があり、さっそく市長に対し県に積極的に働きかけるよう申し入れを行いました。市長としては、議会で採択されればそれに基づいて県の方にこの趣旨の実現方を陳情したいと思うとの意思表明があり、全員一致この請願第四号は採択すべきことに決しました。

以上、審査の概要を御報告申し上げ、委員長報告を終わります。何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（石井 正君） 以上で委員長報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よつて質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか。——討論な

しと認めます。よつて討論を終結いたします。

採 決

○議長（石井 正君） これより採決いたします。

請願第四号についての委員長の報告は採択すべきであるとするものであります。

請願第四号を委員長の報告どおり採択すべきものと決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて請願第四号は委員長報告どおり採択すべきものと決しました。

延 会 午前十一時二十三分延会

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よつて本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明三月八日から十一日まで議案審査のため休会、次会は三月十二日午前十時開会とし、その議事は通告による行政一般質問を行います。

なお、行政一般質問の申し出締切は十日正午でございますので御了承願います。



○ 本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、会議日程の決定

一、議案第七号乃至議案第三十五号

一、議案第一号

一、請願第四号